

平成30年8月31日

久留米市議会議長 佐藤 晶二 様

広域連携推進調査特別委員長 栗原 伸夫

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 平成30年8月24日（金）
- 2 派遣先 福岡県筑後市：観光振興について
及び内容 福岡県みやま市：広域観光の取り組みについて
- 3 派遣委員 委員長 栗原 伸夫
副委員長 永田 一伸
委 員 田住 和也 松岡 保治 森崎 巨樹
田中 貴子 原 学 塚本 弘道
森 多三郎
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随 行 本松 寿史 志岐 明洋
理事者 観光・国際課長 眞子 克彦

視察報告書

委員会名	広域連携推進調査特別委員会
視察日時	平成 30 年 8 月 24 日（金） 午後 1 時 45 分 ～ 午後 2 時 45 分
視察先・概要	福岡県筑後市 人口：約 4 万 9 千人 面積：41.78 k m ²
視察内容	観光振興の取り組みについて
選定理由	筑後市では、近隣自治体と広域的に連携して「筑後七国」の取り組みを進められており、域内のスタンプラリーなどさまざまな事業を実施されている。本市が今後さらに広域観光を進める際の取り組みの参考とするため
調査概要	<p>筑後市総務部企画調整課の豊福課長の挨拶に引き続き、商工観光課、ホークスファーム連携推進室から、筑後市の観光推進の取り組み、ホークスと連携した観光の取り組みなどについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p> <div data-bbox="507 996 1377 1541" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">＜視察の様子：筑後市＞</p>
調査内容	九州新幹線筑後船小屋駅の開業を契機に、筑後地域 5 市 2 町（柳川市、八女市、筑後市、大川市、みやま市、大木町、広川町）の商工観光の広域連携を図り、産業及び経済の活性化を目的に筑後七国商工観光推進協議が平成 23 年 10 月に設立され、事務局は筑後市に置いていた。また、平成 28 年 8 月には HAWKS ベースボールパーク筑後の開業を契機に、ホークスとの連携推進、地域スポーツの振興及び青少年健全育成の支援等に取り組むこと

	<p>を目的に筑後七国ホークス連携協議会を設立された。平成 29 年 4 月からは、2つの組織を発展的に解散し、新たに筑後七国活性化協議会を立ち上げられている。</p> <p>協議会では、各自治体の観光地などを掲載したパンフレットの制作やHAWKS ベースボールパーク筑後内での物産展、ウエスタンリーグ公式戦での「筑後七国デー」の開催、情報誌の発行、スタンプラリー等さまざまな取り組みを行われている。</p> <p>また、圏域の知名度向上の取り組みとして、平成 30 年 2 月に鹿児島中央駅にて県外観光PRキャンペーンを実施されている。</p> <p>これまでの活動の成果としては、福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致活動の受け皿として大きな役割を果たしたことや各自治体の観光地を結びつけることにより新たな魅力の発信が可能となったこと、それを生かした周遊促進事業の実施による域内誘客の拡大を図ることができたことなどがある。</p> <p>課題として、事務局運営に関する業務量の多さや構成自治体間での活動の温度差がある。</p> <p>今後は、ホークスファーム来場者の周遊促進による地域活性化や新たな分野での広域連携の模索に取り組んでいきたい。</p>
<p>主な質問・応答</p>	<p>問：ホークスファームが来たことにより多くの方が筑後市に来てあると思うが、船小屋温泉の宿泊施設の稼働率は向上したのか。</p> <p>答：宿泊施設は減少しており、現在は5施設となっている。ホークスが来てから宿泊数は増加傾向にあるが、客室ベースでいうと6割から7割程度である。</p> <p>問：ホークスファームが来たことによる経済効果にはどのようなものがあるのか。</p> <p>答：市としては観光・経済の効果ではなく、社会教育の一環として社会的効果があったと捉えているため、経済効果について統計はとっていない。ただ、ホークスとの関連ははっきりとしないが人口は微増で推移していて、市内の小売業者の売り上げも年間百億円程度増加している。</p>

	<p>問：筑後市はどういった方を観光のターゲットとして売り込もうとしているのか。</p> <p>答：筑後市としては、恋木神社を中心に「恋のくに・筑後」をコンセプトに若い女性の方をターゲットとして観光振興を進めている。</p> <p>問：域内を周遊してもらうためには宿泊する環境が重要と考えるが、圏域内の宿泊環境の整備に取り組んであるのか。</p> <p>答：七国としては、どこに宿泊してもらってどこを周遊するという話まではできていない。</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>本市が広域観光の取り組みをさらに進めるにあたり、筑後市の「筑後七国」のさまざまな取り組みは参考になるのではないかと感じました。しかし、筑後市から話があったように、どうしても自治体間の取り組みへの温度差が出てくると思われるので、それをなくすための方策を検討する必要があると感じました。</p>

視察報告書

委員会名	広域連携推進調査特別委員会
視察日時	平成 30 年 8 月 24 日（金） 午後 3 時 ～ 午後 4 時
視察先・概要	福岡県みやま市 人口：約 3 万 8 千人 面積：105.12 k m ²
視察内容	広域観光の取り組みについて
選定理由	みやま市では、有明定住自立圏において広域観光の取り組みをされていることや、本市と同様に市内に九州オルレコースがあり訪日外国人観光客の誘客に取り組みられていることから、本市の参考とするため
調査概要	<p>みやま市商工観光課江崎課長の挨拶に引き続き、商工観光課から、みやま市の広域観光振興の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;">＜視察の様子：みやま市＞</p>
調査内容	<p>みやま市では、観光振興計画においてターゲットを福岡市、熊本市在住の若年女性、ヤングファミリーと定め、その中でもコアターゲットを 30 代の女性として取り組みを進めている。</p> <p>広域観光の取り組みとして、筑後七国活性化協議会や筑後地区観光協議会、九州オルレ認定地域協議会など 6 つの会議体に属して連携を進めている。そのほか、個別に連携した事例として、みやま市のぼたん園と柳川市の藤まつりの間にシャトルバスを運行し、両イベントのチラシに互いの情報を掲載したところ、ぼた</p>

	<p>ん園の来場者数が40%増になるなどの効果があった。また、九州オルレコースの連携として南島原市と合同して周遊促進の取り組みをしたところ、イベントの申し込みが定員を超えたり、南島原市からのオルレ参加者が増加するなどの効果があった。</p> <p>訪日外国人観光客の誘客（インバウンド）の取り組みについては、平成29年2月に九州オルレ「みやま・清水山コース」がオープンしてから本格的に取り組んできた。オープニングイベントでは、600人の参加者のうち約150人が韓国からの参加者であった。みやま市ではコースへの年間来訪者約5千人のうち、2割から3割が韓国からの来訪者と予想している。また、イベント時のフィニッシュ地点である道の駅みやまの売り上げは、最大で114%の増加となった。そのほかの取り組みとして、外国人向けのパンフレット制作や海外での旅行商談会への参加などを行っている。そうした中で、旅行会社と話すところでは柳川などの有名な観光地の周辺に興味を向いている状況なので、柳川市の近隣としてセットで売り込んでいければと考えているとのことであった。</p>
<p>主な質問・応答</p>	<p>問：地元企業のコネクションなどを活用したインバウンドの取り組みはしていないのか。</p> <p>答：特に取り組みはしていないが、オルレの際に商品をプレゼントするなどの取り組みはしている。</p> <p>問：インバウンドの取り組みの枠組みを広げようとは考えていないのか。</p> <p>答：インバウンドに限らず、周辺の地域に来ているお客様に対して合わせてPRすることが有効と考えている。</p> <p>問：南島原市とオルレで連携してあるが、ほかのオルレコースとの連携は考えていないのか。</p> <p>答：福岡県内の5ルートの連携や清水山荘のリニューアル後に、それを活用した連携を考えている。</p>

	<p>問：オルレコース参加者に韓国の方が多いが、道の駅では何か対応の工夫をしているのか。</p> <p>答：道の駅のスタッフには韓国語を話せる者はいないが、売れ筋の商品に韓国語の表記をお願いしたり、フードコートの店ではメニューに中国語・韓国語の表記をするなどの対応をしている。</p>
その他（意見・感想）	<p>みやま市の「花」という共通の観光資源で連携することで来場者を増加させた取り組みは、「花」だけでなく「フルーツ」や「食」などで本市も検討できるのではないか。</p> <p>また、オルレコースを活用しコースを持つ自治体が連携してインバウンドに取り組むことも、本市の今後のインバウンドの取り組みとして検討する必要があると考える。</p>